



㊦スプレッドのレタス工場＝2日、京都府亀岡市㊦大きく
なった苗は、養分水がしみこんだ穴に、一つひとつ手作業で植
え替えます＝スプレッド提供

スマート農業

ロボットや通信技術を使って作物を育てる「スマート農業」が広がっています。室内でレタスを作る工場や、スマートフォンなどでデータを管理するミカン農家……。「高齢化」「人手不足」など農家がかかえる問題を、技術力によって乗り越えようとしています。
(寺村貴彰)

科学技術で人手不足をカバー

工場から毎日レタス2万個出荷

室内のたなに並んだレタスの苗が、蛍光灯の光を受けて青々と輝いて見えます。養分がしみこんだシートからレタスが顔を出し、発芽から約40日後の出荷を待っています。

野菜工場を運営する

「スプレッド」の工場(京都府亀岡市)では、蛍光

灯の光でレタスを栽培しています。1日に約2万個を関東や関西のスーパーなど約2千店に出荷しています。栄養などは太陽の光で育てる場合と変わらないといわれています。

安定・無農薬が強い

光のほか、温度、栄養など、植物の成長に必要な要素をすべてコントロール

ール。スプレッド食育担当の川口友菜さんは「天候や大気汚染の影響を受けずに安定した供給ができ、害虫がつかず無農薬で栽培できるのが強み」と話します。

無農薬野菜の注文が増えているため、2017

年夏までに、1日で3万

個を生産できる新工場を建てて出荷することにしました。

太陽の光で育てる露地

栽培とちがい、空調や照明には多くの電気代がかかります。そこで新工場では、苗の植え替えや収穫など工程の多くを機械によって自動化し、費用をおさえ、全体の人件費をほぼ半分に。蛍光灯をLEDに変えることで電気代をおさえます。また、葉から蒸発した水分も再利用し、徹底的にむだを省く計画です。

川口さんは「日本での生産量を増やしたうえで、水資源の乏しい国でもこの技術を生かしたい」と考えています。

朝日

小学生

新聞

2015年9月24日 木曜日
(平成27年)

©朝日学生新聞社

東京本社 〒104-8433 東京都中央区築地 5-3-2

大阪支社 〒530-0005 大阪府北区中之島 2-3-18

電話 03(3545)5223(広報) 06(6202)3893(大阪)

記事についてのお問い合わせは 03(3545)5222(編集)